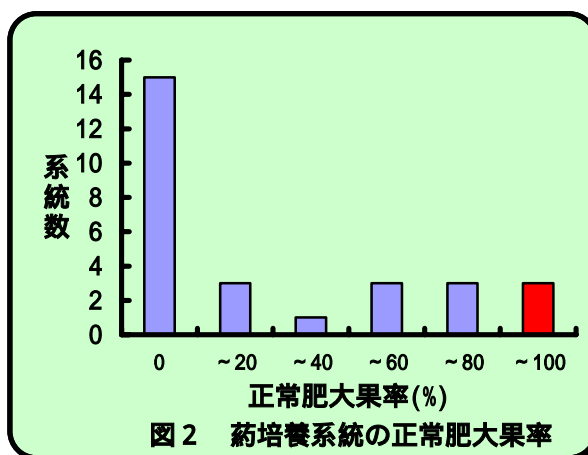
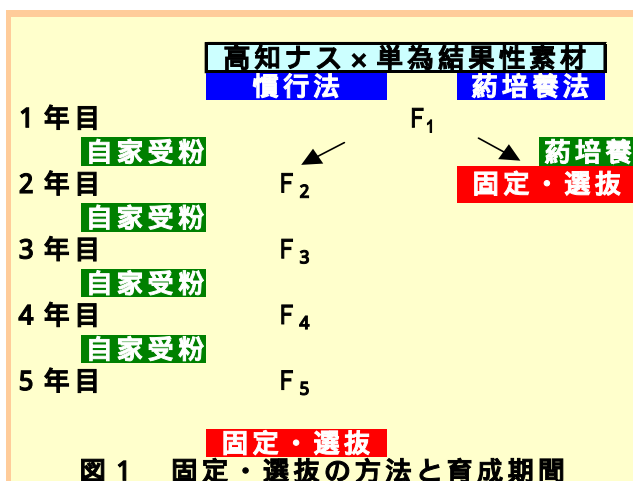


## 薬培養で単為結果性高知ナスの 品種改良をスピードアップ



当センターではナス栽培の省力化を図るため、受粉しなくても果実が肥大する単為結果性ナス「高育交10号」を育成しました。しかし、収量・品質についてはまだ十分ではなく、もどし交配によりさらなる改良を進めています。

そこで、育種期間を短縮するために薬培養手法を検討しました。慣行の自家受粉による単為結果性の固定・選抜には、4~5年かかりますが、薬培養では1年半に短縮されました(図1)。

また、薬培養で得られた系統の約半数が単為結果性を示しました。これらの肥大果率は系統によって異なりましたが、そのうちの3系統は80%以上の高い肥大果率を示しました(図2)。

今後は、薬培養を活用して単為結果性高知ナスの品種改良のスピードアップを図ります。

(育種バイオテクノロジー科  
岡田 昌久 088-863-4916)